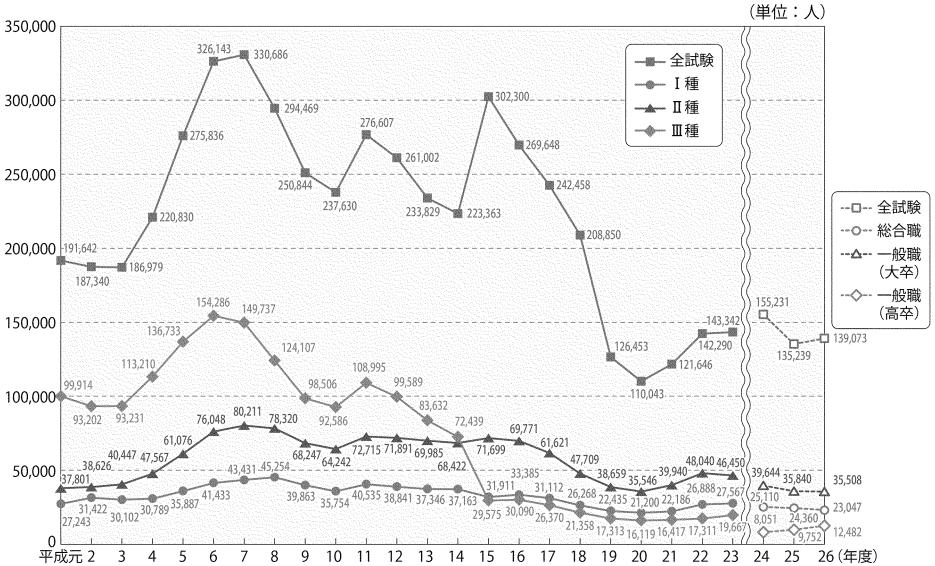
さらに、一般職試験（大卒程度試験）のうち「行政」の区分試験、一般職試験（高卒者試験）及び一般職試験（社会人試験（係員級））のうち「事務」、「技術」の２の区分試験、刑務官採用試験及び税務職員採用試験については、合格者の地域的偏在を防ぎ、全国各地に所在する官署からの採用に応じられるようにするため、地域別の試験に分けて実施した。

人事院及び外務省の実施する全試験の申込者総数は139,073人で、前年度に比べると3,834人（2.8％）の増加となった。このうち、大学（大学院）卒業程度の試験は94,248人で、前年度に比べ775人（0.8％）減少した。また、高等学校卒業程度の試験は、44,825人で、前年度に比べ4,609人（11.5％）の増加となった。

人事院及び外務省の実施する全試験の合格者総数は18,804人で、前年度に比べると1,677人（9.8％）の増加となった。

申込者数が合格者数の何倍かを示す比率（以下「倍率」という。）は、表１－２のとおりとなった。その内訳は、大学（大学院）卒業程度の試験が7.4倍（前年度7.9倍）、高等学校卒業程度の試験も7.4倍（前年度7.8倍）であり、いずれの試験も前年度をやや下回った。

図1-1　**国家公務員採用試験申込者数（Ⅰ種・Ⅱ種・Ⅲ種（23年度まで）及び総合職・一般職（大卒・高卒））の推移**




イ　試験の種類別の状況

主として各府省に共通する官職（係員）を対象とする総合職試験（院卒者試験）、総合職試験（大卒程度試験）、一般職試験（大卒程度試験）及び一般職試験（高卒者試験）における特徴的な事項は、次のとおりである。

(ｱ)　総合職試験（院卒者試験）

①　春に実施した試験（秋に実施した「法務区分」（司法試験合格者を対象とする区分）以外の試験）の申込者数は表１－２のとおり3,062人で、前年度に比べ237人（7.2％）減少したが、合格者数は551人となり、前年度に比べ80人（17.0％）増加した。

女性の申込者数は713人で、前年度に比べ32人（4.3％）減少したが、申込者全体に占める割合は23.3％で0.7ポイント上昇した。また、女性の合格者数は93人で、前年度に比べ６人（6.9％）増加したが、合格者に占める割合は16.9％で1.6ポイント低下した。

②　秋に実施した試験（「法務区分」）の申込者数は87人で、前年度に比べ63人（42.0％）減少したが、合格者数は39人となり、前年度に比べ３人（8.3％）増加した。

女性の申込者数は25人で、前年度に比べ17人（40.5％）減少したが、申込者全体に占める割合は28.7％で0.7ポイント上昇した。また、女性の合格者数は12人で、前年度に比べ３人（33.3％）増加し、合格者に占める割合も30.8％で5.8ポイント上昇した。

③　上記①の試験の申込者数及び合格者数について、国・公・私立別の出身大学院をみると、申込者数では国立大学が70.3％、私立大学が25.8％を占め、前年度とほぼ同じ割合であった。一方、合格者数では国立大学が73.1％で6.3ポイント低下し、私立大学が25.6％で7.1ポイント上昇した。

(ｲ)　総合職試験（大卒程度試験）

①　春に実施した試験（秋に実施した「教養区分」（既存の試験区分以外の専攻分野の学生や外国の大学の卒業者など多様な有為の人材確保に資するよう、企画立案に係る基礎的な能力の検証を重視した区分）以外の試験）の申込者数は表１－２のとおり17,985人で、前年度に比べ964人（5.1％）減少したが、合格者数は1,367人となり、前年度に比べ85人（6.6％）増加した。

女性の申込者数は5,777人で、前年度に比べ245人（4.1％）減少したが、申込者全体に占める割合は32.1％で0.3ポイント上昇した。また、女性の合格者数は306人で、前年度に比べ51人（20.0％）増加し、合格者に占める割合も22.4％で2.5ポイント上昇した。

②　秋に実施した試験（「教養区分」）の申込者数は1,913人で、前年度に比べ49人（2.5％）減少したが、合格者数は123人となり、前年度に比べ31人（33.7％）増加した。

女性の申込者数は590人で、前年度に比べ22人（3.9％）増加し、申込者全体に占める割合も30.8％で1.8ポイント上昇した。また、女性の合格者数は30人で、前年度に比べ12人（66.7％）増加し、合格者に占める割合も24.4％で4.8ポイント上昇した。

③　上記①の試験の申込者数及び合格者数について、国・公・私立別の出身大学（大学院を含む。）をみると、申込者数では国立大学が48.6％、私立大学が43.9％を占め、合格者数では国立大学が68.3％、私立大学が27.7％となり、前年度とほぼ同様の傾向を示している。

(ｳ)　一般職試験（大卒程度試験）

①　表１－２のとおり申込者数は35,508人で、前年度に比べ332人（0.9％）減少したが、合格者数は6,183人となり、前年度に比べ166人（2.8％）増加した。

女性の申込者数は11,178人で、前年度に比べ64人（0.6％）増加し、申込者全体に占める割合も31.5％で0.5ポイント上昇した。また、女性の合格者数は1,741人で、前年度に比べ19人（1.1％）増加したが、合格者に占める割合は28.2％で0.4ポイント低下した。

②　申込者及び合格者を学歴別にみると、大学卒業者等の占める割合は、申込者は85.2％、合格者は84.4％であり、大学院修了者等の占める割合はいずれも10％台となり、前年度とほぼ同様の傾向を示している。

③　申込者数及び合格者数について、国・公・私立別の出身大学（大学院を含む。）をみると、申込者数では私立大学が54.4％、国立大学が35.6％を占め、合格者数では国立大学が49.1％、私立大学が41.7％となり、前年度とほぼ同様の傾向を示している。

(ｴ)　一般職試験（高卒者試験）

①　表１－２のとおり申込者数は12,482人で、前年度に比べ2,730人（28.0％）増加し、合格者数も1,902人となり、前年度に比べ187人（10.9％）増加した。

女性の申込者数は3,777人で、前年度に比べ439人（13.2％）増加したが、申込者全体に占める割合は30.3％で3.9ポイント低下した。また、女性の合格者数は602人で、前年度に比べ21人（3.4％）減少し、合格者に占める割合も31.7％で4.6ポイント低下した。